

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2392200081		
法人名	株式会社 サンケイ		
事業所名	グループホームテアフル 笑明かり・咲明かり(笑)		
所在地	一宮市浅井町尾関字西五輪26		
自己評価作成日	平成26年12月15日	評価結果市町村受理日	平成27年2月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2392200081-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2392200081-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
聞き取り調査日	平成27年2月14日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

個々の思いを大切に常にご利用者の気持ちに寄り添い、その人らしく自由に過ごしながらも互いに助け合い、可能な限り自分の力が発揮できるようにしている。今年も「旅行に行けると良いな」という一言から、ご家族のご理解・ご協力があり下呂旅行に行けた。恒例になってきている。個々の願いが叶えられるように努めている。日頃から季節感を大事に、旬の食材を使った食事や夏は晩酌。花見やイルミネーションを見たり、要望を踏まえ遠足・モーニング・喫茶店等外出する機会があり、社会との繋がりをもち気分転換を図っている。夏祭りや運動会等ご家族や地域の方にも参加頂いたり、民謡・大正琴・落語等ボランティアさんとの交流を大切にしている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「生きてるって素敵と思える家に」の理念を毎月のミーティングで唱和しながら確認し実践に繋げるようにしている。1人1人の思いを大切に、その人らしく過し十分に力が発揮できるように日々のケアに努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内のお祭り、夏祭り・運動会・餅つき等行事にも参加して頂いたり、日頃の散歩やゴミ出し時にも挨拶を交わし交流を深めている。民謡・大正琴・落語等のボランティアさんにも来て頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	行事や会議等に地域の方やボランティアさんに参加して頂いたり、地域へ積極的に外出し認知症の理解を深めて頂けるように努めている。見学者や実習生にも説明をしプライベートには十分配慮している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	年6回町内・市役所・ご家族・ご本人・民生委員に参加頂いている。テーマに沿った自己紹介や行事と共に行う事があり、話しやすい雰囲気作りをしている。活動報告を行い質問・意見・要望を受けサービスに活かしている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	主に、管理者とケアマネージャーが日頃から連絡を取り合い協力関係を築いている。会議に参加して頂き、意見交換を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	内部・外部研修、ミーティングで理解を高め職員全員が認識し身体拘束をしないケアに努めている。館内の移動は自由で思い思いに過ごせ、常に見守っている。玄関は目の前が道路で交通量が多い事から施錠している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	内部・外部研修、ミーティング時に不適切なケアがないか確認、職員間で情報交換し実践の中で学んでいる。虐待を見過ごさないよう入浴時傷の有無や表情確認等本人の変化に細心の注意を払い防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在、1名が成年後見人を利用している。法的な知識について理解している職員は少なく、勉強不足を感じる。今後、学んでいく必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、管理者やケアマネジャーが不安・疑問点のないよう十分説明をしている。解約時、管理者・ケアマネジャー・リーダーを含め話し合っている。改定時、家族会等で理解・納得に努め、日頃よりコミュニケーションを図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	話しやすい環境作りに努めている。双方の想いを面会時や日々の中で聴き取り、連絡帳を活用して職員間で共有し管理者に伝えている。家族会や運営推進会議等で意見交換を行い、反映させるようにしている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	年2回の個人面談、月1のミーティング等職員が意見を言い合える環境にある。夏祭りや運動会の行事や日々のケア等職員のアイデアが多く反映されている。人事異動や入居・退居時は管理者と話し合いの下決めている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個人面談で1人1人に合った目標を定めている。3か月に1回ユニットで1年に1度事業所全体で食事会を開催し、職員のモチベーションが上がるようにしている。勤務状況は常に職員の体調・人員に配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	事業所から個々の能力を見て外部研修を勧めている。事務所に研修の案内が張り出され年に1度は事業所負担で好きな研修に行ける。内部研修はそれぞれの職員の力量に合う内容を行い知識・技術向上を図っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	同事業所内(北方)と勉強会や行事を共に行い意見交換をしている。又、リーダー研修で同業者のリーダーが施設を訪問・外部研修・尾張ネットワークを作成し外部の方と交流を深め、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ゆっくりと落ち着いた雰囲気の中マンツーマンで過ごし要望・不安・想いを吐きだせ、少しでも不安が取り除けるように努めている。常に笑顔で心がけ早期に職員・他者と信頼関係を築き、安心した生活ができる様にしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所する段階で、管理者やケアマネジャー・リグと話し合い、ご家族の不安・要望に耳を傾け、安心して頂けるような関係作りに努めている。常に、ご家族の想いを受け止め、何事も共に解決できるように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人・ご家族の思いを伺い、管理者・職員で話し合い、今必要としている支援を見極めるように努めてサービスを提供している。又、他事業所とも連携をとり何時でも協力が出来る体制でいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	常にご利用者と共に過ごす事を大切にしている。出来る事を皆で協力しながら行い、昔からの風習や裁縫・教訓・子育て等人生の先輩として何でも教えて頂いています。互いの気持ちを汲み取りあい過ごしています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時に近況報告や世間話等でコミュニケーションを図り、常にご家族の意見を聞きながら共に支え合う姿勢を取っている。行事・外出・衣替え・日用品補充等を通じ面会を増やし、ご本人とゆっくりと話ができる様にしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人と携帯電話で約束し面会・外出や行きつけの理容室や病院へ継続して利用している。喫茶店や思い出の場所に行く機会もあり、馴染みの人や場所等今まで大切にしてきた関係が途切れないように支援している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	声を掛けあい手を繋いだり、他者のお膳運び等生活の中でお互いに協力する姿が見られる。フロアは常に皆で過ごせる環境にあり、職員はご利用者の輪に入り孤立しないように支え合えるよう支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスの利用が終了しても今までの関係を大切に、ご本人・ご家族の経過をフォローし相談・支援が出来る様に努めている。いつでも来設しやすく話しやすい環境作りにも心がけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	常に本人の立場に立ち不安のないように話し合いながら、1人1人の思いや希望に応えられるように努めている。小さな変化も見逃さず会話・表情等から思いを汲み取り職員間で状況共有し実現できるようにしている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントシート、ご本人・ご家族との会話から把握するように努めている。服を作っていた方には裁縫を、鉄板焼きやだっただ方にお好み焼きを焼いたり、今までの生活を大切にしたい環境作りに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	食事・排泄の記録し”いつもと違う”の視点の下、個々の状態や有する力の変化を見逃さず現状把握、職員間で情報共有をしその日に合ったケアに努めている。出来る事は積極的にを行い居心地よく過ごせるようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人・ご家族の要望を交え月1回のミーティング等を通じ、介護計画に沿って見直し・変更をしている。ご利用者1人1人がより良く暮らす為にご本人・ご家族と相談しながら現状に即した、介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録に介護計画の内容を記載し出来たらチェックをしている。日々の様子・本人の言葉・思い等も記入している。連絡帳にも気づき等を含め記入し、職員間で共有しながら実践し介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人・ご家族からの、その時々生まれるニーズに応えられるように、管理者・職員間で相談しながら柔軟な支援が出来る様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	ご本人が利用していた喫茶店・美容室・理容室・病院等ご家族や職員と共に行っている。スーパーや喫茶店・ゴミ捨て等地域を利用して関係作りを行い暮らしを楽しむ事が出来る様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご本人・ご家族の希望でかかりつけ医を決めており、急な受診も相談しながら決めている。現在3名受診している。事業所は月1回往診がある。常に適切な医療が受けれるように情報提供を行い支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	月に4回看護師が訪問がある。1人1人の書類に情報や気づきを記入し、相談しながら看護師が個々に対応をしている。気になる変化があればすぐに看護師に連絡し、適切なケアが受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、情報提供書作成・電話での対応や定期的にお見舞いに伺い情報交換し現状把握してご本人・ご家族が安心出来る様に関係作りを努めている。早期に退院出来る環境を整え、退院時はご本人・ご家族・病院・事業所と共に話し合いを行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時、ケアマネージャー・管理者から話している。変化がある度にご家族にご報告させて頂き、早い段階でご本人・ご家族の希望を踏まえて今後の事を話し合い、事業所が出来る事を見極めて伝えている。本人にとって良い生活が出来る事を考えて支援している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	消防の方に講習や指導を頂いたり、内部研修で学んでいる。慌てず行動が出来る様に、知識を増やし実践を身に付けるように努めている。マニュアルや連絡網は常に身近に置き、すぐに対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に1度事業所全体と3か月に1度ユニット内で行っている。訓練後、反省し参加していない職員にも周知できるように努めている。地域を交えた訓練が行えていないので、今後協力要請をしていく必要がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉遣いや態度に注意し、常に尊敬の気持ちとご本人の立場になって考え行動する事に努めている。希望者に自室の鍵、トイレの声掛けや情報は他者に聞こえないようにし誇りやプライバシーを損ねない対応をしている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	飲み物・おやつ・ランチ・外出先でも自分で食べたい・欲しい物を選んでいく。1人1人のペースで選択・自己決定出来る様に心がけている。日常の会話や表情からも希望を汲み取り、行いたいように出来る様努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	好きな時に寝たり、テレビ見たり、散歩したり等自由に過ごせるように配慮している。その都度どうしたいか把握し、その人らしく生活出来る様に個々の思いやペースを大切に、無理なく心地よく過ごせるように努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	髪の流れ、爪が長さ、服のほつれ等常に身だしなみに気にかけて対応している。服や髪型を褒めたり、化粧やオシャレが楽しめるような支援に努めている。夏祭りや希望時にネイルや化粧、美容室にも定期的に行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	好きな物を聞きながら献立をたてたり、買い物・調理・片付け等1人1人の力を活かしながら、ご利用者・職員と楽しんで行っている。朝食時パンが良い方にはパンを。丼物が苦手な方はわけて提供等要望に合わせている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事・水分量を毎食記入し、個々に合った必要な量を確保出来る様に努めている。その日の体調に合わせて粥等を提供している。献立は1汁3菜と決め、フルーツ・乳製品も摂取し栄養バランスが偏らないようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後1人1人の力に応じて声掛けし口腔ケアに努めている。その際、口臭や磨き残しがないように心掛けている。週に1回ホリデント・月に2回の訪問歯科で掃除や指導を受け清潔に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄表を活用して個々にパターンを把握し、トイレで排泄出来る様にしている。誘導・失禁時等声掛けに注意し、自尊心に配慮している。トイレに張り紙をしたり、箱に紙を捨てる方の為にゴミ箱を作り迷いがないようにしている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日ヨーグルト、果実、食物繊維を摂取するようにしている。便秘気味な方には牛乳や水分を勧め、トイレにゆっくりと座る時間をとっている。毎日、肛門体操・体操・散歩等体を動かす事を行い便秘予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	午前中から1人1人ゆっくりと入浴している。湯の温度・ペース等個々に合わせ、入浴剤の使用、会話や音楽を流し楽しめるようにしている。拒否の方は、マンツーマンや職員が交代しながら気持ちよく入れるように努めている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	好きな時に好きな場所で休める環境作りをし、個々に合わせ温度・光・音を調整している。疲労が見られる方は声掛けし休まれたり、眠れない方はホットミルクを提供し会話され安心して休息が出来る様に努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤情報がいつも見れる所にあり、職員全員が理解に努めている。服薬時、名前・日付を復唱し誤薬の無いようにしている。服薬変更時は連絡帳に記載や申し送りを共に行い共有すると共にご利用者の変化に注意している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	裁縫・カラオケ・占い記入・間違い探し・家事等個々の楽しみや得意な事を理解し役割を持ち、喜びある生活が送れるように支援している。会話等から楽しみを見つけ個別で外出・大正琴・民謡等の気分転換の機会がある		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常的に、散歩や買い物・モーニング・ランチ・喫茶店月1回の遠足・個別外出等があり、個々の希望を把握し積極的に出かけている。いつでも出かけられる環境に努め、ご家族と外泊・友人との外出等している。今年もご家族の協力の元1泊旅行が実施できた。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	財布を持って出かける方がいるが、基本事業所管理である。買い物・外出時支払いや出納帳に記入している。いつでも使用できる環境で欲しい物を購入できる。お金に触る機会を増やし、金銭管理の支援をしたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望時、いつでも電話や手紙ができて、話しやすい・行いやすい環境作りをしている。2名携帯電話を持っており、自由に電話やメールをしている。年賀状や夏祭り・運動会等招待状も本人が記入しやり取りをしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家庭の温もりのある雰囲気になっており、季節感ある飾り・作品・写真の掲示や音楽を流している。写真を見てご利用者同士で話せる姿がある。常に清潔に心がけこまめな温度調整・居室やトイレ等の温度差に注意し、気持ちよく過ごせるように努めている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食卓とテレビ&ソファのスペースがあり、どこでも寛げるようになっている。ソファで横になったり、気の合う人と話をしたり、テレビやDVDを見たり、その時々で、思い思いの場所で自由に過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みのタンス・三面鏡・布団・写真・遺影・仏壇等持ち込み、自宅に居る様に安心して過ごせる環境作りをしている。ご本人・ご家族と相談し持参物を考え、安全にも配慮しながら居心地よく過ごせるよう工夫している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室の表札・椅子の名前・トイレの案内等わかりやすくしている。館内は手すりがありバリアフリーで、安全で自立した生活が送れるようになっている。いつでも全体が見渡せ、個々に合わせて対応できるように心がけている		